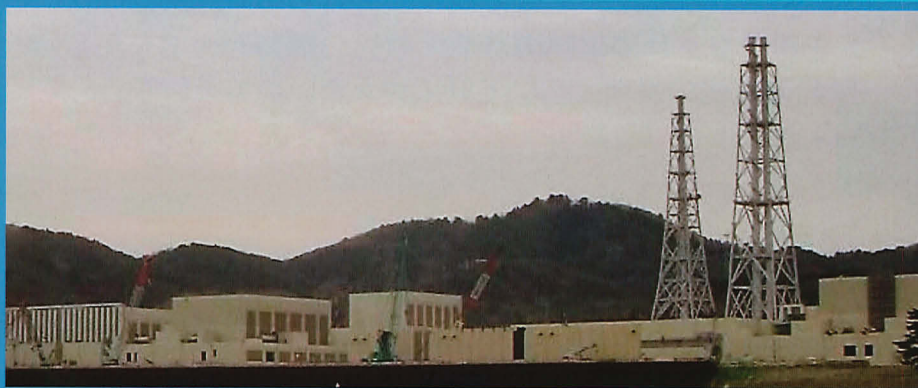


県民が決める！ 女川原発再稼働の是非



「東北電力は福島原発事故から何を学んだのか」
田中三彦さん
(元国会事故調委員)



「新規制基準は世界一なのか」
後藤政志さん
(元原子炉格納容器設計者)

東北電力は「2018 年後半以降」に女川原発 2 号機を再稼働するとしていますが、それには宮城県と女川町、石巻市の同意が必要です。特に、女川原発の再稼働は宮城県知事の姿勢によって大きく左右されます。宮城県民の皆さん、原発技術者の意見を聴いてこの問題について共に考えましょう！

原発技術者が語る女川原発再稼働の問題

2017 年

日時 **10**月**7**日(土)午後 1 時～4 時 30 分 開場 12 時 30 分

入場
無料

会場 仙台市福祉プラザ ふれあいホール 地下鉄南北線「五橋駅」下車 徒歩3分
*裏面に地図があります

主催:
脱原発をめざす宮城県議の会
女川原発の再稼働を許さない！みやぎアクション

連絡先：☎/FAX 022-373-7000(篠原)
Email：hag07314@nifty.ne.jp
ブログ：http://dkazenokai.blog.fc2.com/

県民が決める！ 女川原発再稼働の是非

原発技術者が語る 女川原発再稼働の問題

日時 2017年10月7日(土)午後1時～4時30分(開場12時30分)

会場 仙台市福祉プラザ ふれあいホール 入場無料

3.11大震災で基準をはるかに上回る揺れに襲われ、多数のひび割れが見つかった「被災原発」を再稼働させてよいのか？ 福島第一原発事故の原因は解明されてもいないのに、同じ型の原子炉を再稼働させてよいのか？ 原発の構造と現場を熟知した技術者の意見を聴いて、女川原発再稼働の是非について共に考えましょう。そしてこの問題を宮城県知事選の争点のひとつとしていきましょう。

☆三 プログラム

- 12:30 開場
- 13:00 開会
- 講演1 「東北電力は福島原発事故から何を学んだのか」
田中三彦さん(元国会事故調委員)
- 講演2 「新規制基準は世界一なのか」
後藤政志さん(元原子炉格納容器設計者)
- 15:10 休憩
- 15:25 会場を交えたディスカッション
- 16:30 閉会

☆三 講演者プロフィール

田中 三彦(たなか みつひこ)さん

1968年東京工大卒業後、日立製作所の系列会社「バブコック日立」に入社し、福島第一原発4号機などの原子炉圧力容器の設計に関わる。1977年退社し、サイエンスライターとして翻訳・科学評論を執筆。「柏崎刈羽原発の閉鎖を訴える科学者・技術者の会」呼びかけ人。東電福島原子力発電所事故調査委員会(国会事故調)元委員。

後藤 政志(ごとう まさし)さん

工学博士。1989年、東芝に入社。原子炉格納容器の圧力と温度に対する強度設計を研究。十数年にわたり原子炉格納容器の設計を手がける。福島第一原発事故の翌日、田中三彦氏らとともに記者会見し、炉心溶融の危険性をいち早く指摘した。以来、原子炉格納容器設計者の観点から福島第一原発事故の分析を行っている。

主催:

脱原発をめざす宮城県議の会

宮城県議会(定数59)の超党派の県議有志20人によって結成された。①原発依存からの脱却を目指す②女川原発再稼働に反対する人々、慎重な対応を求める人々と思いを同じくする…の2点を目的とし、学習会や意見交換の場などを中心に活動を進める。このような「脱原発」をうたった会の設立は原発立地13道県議会で初めて。会長は、佐々木功悦県議(みやぎ県民の声)。副会長は、菅間進県議(無所属の会)、中嶋廉県議(日本共産党)。事務局長は、岸田清実県議(社民党)。

女川原発の再稼働を許さない! みやぎアクション

「みやぎアクション」は「女川原発の再稼働を許さない!」という思いで集まり行動する宮城県民のネットワーク。福島原発事故以降、県内で行動を起こした多くの個人や団体が“ゆるやかに”つながって、女川原発の再稼働阻止そして廃炉を目指して、集会や講演会の開催、東北電力や県との交渉などに取り組んでいる。

☆三 会場案内 仙台市福祉プラザ 地図
〒980-0022 仙台市青葉区五橋2丁目12番2号

